

3. 下地補修

1) 鉄筋爆裂箇所および欠損部補修

a. 一般事項

- (1) 外壁ひびわれ部から漏水している場合又はひび割れ部から錆汁がでている場合は、事前に監理者と協議を行う。
- (2) 損傷が著しい部分の下地

b. 下地処理

- (1) 電動ピック、タガネ、ハ全部が露出するまで、は
- (2) 下地部分は、ワイヤーブ
- (3) 鉄筋の錆はワイヤーブラ
- (4) 部分的に露出している鉄をはつり、ワイヤーブラシ塗付け、防錆処理を行う。
- (5) 欠損部周辺のぜい弱部分視によって確認する。
- (6) 露出鉄筋及びコンクリーまで塗布する。
- (7) ボンド K モルタルを用い
- (8) 発錆鉄筋を伴わない欠損処理する。

c. エポキシ樹脂モルタルを充填

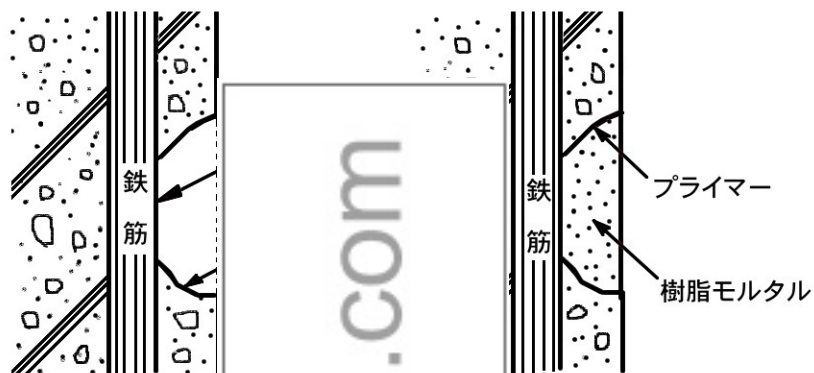
- (1) 欠損部のぜい弱部分をハ
- (2) エポキシ樹脂モルタルは
- (3) プライマーの粘着性があ
- (4) 仕上げ後、夏期では 15日
- (5) 補修部以外に付着した材

d. ポリマーセメントモルタルを充填又は塗り付ける場合

- (1) 欠損部のぜい弱部分をハンマー等で取り除き、プライマーを被着面にはけを用いて塗布する。
- (2) ポリマーセメントモルタルは、製造所の仕様により、調合し混練りする。
- (3) はがれの状況により、1~3層に分けてポリマーセメントモルタルを充填又は、塗り付ける。各層の塗り厚は 7mm 程度とし、表面を金ごてで加圧しながら平滑に仕上げる。
- (4) 各層共、急激な乾燥を避け、適切な養生を行う。

<https://www.sekouya.com>

- (5) 補修部以外に付着した材料は、適切な方法で除去し清掃する。
- (6) ポリマーセメントモルタルが硬化するまでは汚損等ないようにするとともに降雨等からも養生する。



e . 使用材料

防錆用エポキシ樹脂系 プラ
コンクリート充填補修用軽 樹脂モルタル

プライマー : 0.3~0.5 Kg/m ² 社)
モルタル 社)

2) Uカットシール充填工法

a . 一般事項

本補修は、ひび割れの幅 3n

- (1) プライマーの塗布及び充
は、作業を中止する。
- (2) シール材の仕上り状態及
提出し、承諾を受ける。

又は 50 以上になるおそれのある場合

指触により確認し、その結果を監理者に

b . 施工

(1) ひび割れ部の処置

- ・ ひび割れに沿って旧塗膜部にブラッシング、サンダーケレン等を入念に行う。
- ・ ひび割れ部に沿って電動カッター等を用いて幅 10mm 程度、深さ 10~15mm 程度に U 字型の溝を設ける。
- ・ 溝内部に付着している、粉塵をダスター刷毛等で除去する。
- ・ 溝内部にプライマーを塗布する。ただし、埃等付着した場合、又は当日シール材の充填

<https://www.sekouya.com>

が出来ない場合は、再度清掃しプライマーを塗布する。

(2) シーリング材を充填する場合

・プライマー塗布後、シーリング材を製造業所の指定する時間内に、十分隅々まで行き渡るように加圧しながら充填し、仕上げ面の表面から 3～5mm 程度低めに、ヘラで十分押えて表面を平滑に仕上げる。

(3) 二成分形シーリング材は、製造所の指定する配合により、可使時間に見合った量を、練り混ぜて使用する。

(4) 二成分形シーリング材を
なお、サンプリング資料

、各ロットごとにサンプリングを行う。
提出する。

(5) 特記により、シーリング
による。

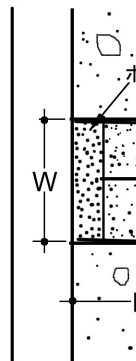
メントモルタルを充填する場合は、次に

シーリング材は、コン
で押え、下地と密着させ
ポリマーセメントモル

mm 程度低めに充填し、充填後は、へら
とする。

(6) シーリング材の試験は、

り接着試験とする。



W : 10mm

D : 15mm

(7) 可とう性エポキシ樹脂を
可とう性エポキシ樹脂を
充填後は、へらで押え、
なお、補修部の上に仕
脂が硬化しないうちに、
可とう性エポキシ樹脂

のノズルをUカット溝に当て充填する。
表面を平滑に仕上げる。

る場合は、充填後、可とう性エポキシ樹
布する。

、均一になるまで混練りする。

(8) 養生及び清掃

シーリング材が硬化するま
充填部以外に、付着した汚れ等を適切な方法で除去し、清掃する。

するとともに降雨等からも養生する。

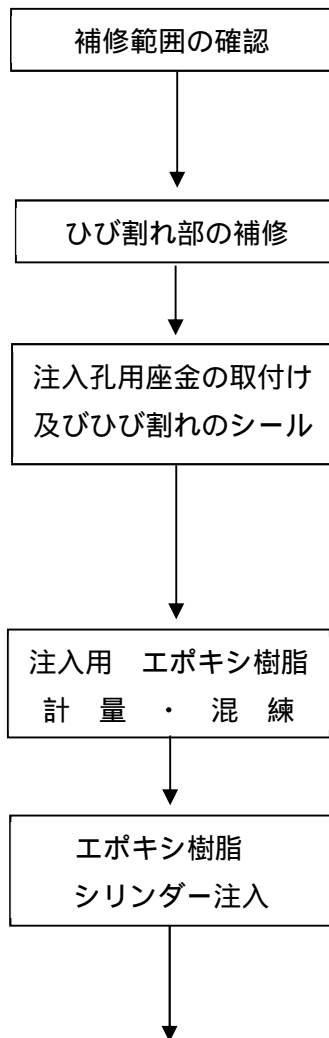
c . 使用材料

汎用プライマー	10 g/m
ポリウレタン系シーリング材	

NS カチオンフィラー #1	

3) 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法

a. 施工フローチャート 施工手順



https://www.sekouya.com

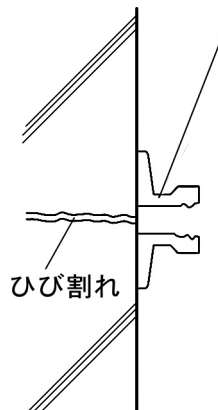
容	使用機材・使用材料
エフロが発生 に補修範囲を	・クラックスケール ・スケール等
50 mm程度の表 掃する。	・ワイヤーブラシ ・皮スキ等
ール材にて取 材で幅 30mm、 確実にシール	・クイックメンダー ・はくりシール ONE
おそれのある る。 正確に計量し、 ずる。	
具に入れ、座金 により注入す	・シリンダーセット コニシ(株)ボンド E206
を調整する。	

b. 施工方法

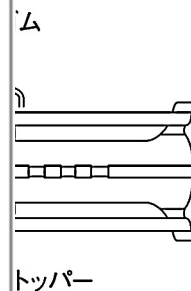
- (1) ひび割れに沿って旧塗材の劣化したトップコートや付着物等を幅 50mm 程度の範囲を
念に、ケレン・除去する。
- (2) 注入間隔は設計図書によるが、指示がない場合は、低粘度のエポキシ樹脂を低速低圧に
て 200 ~ 300mm 間隔で注入し、目止めシールを行う。必要に応じ施工面の肌合わせを行
う。
- (3) 注入器具をひび割れの中心にくるように 50m ~ 250mm 間隔に仮止めシール材等で取付

ける。

- (4) 仮止めシール材は、製造所の仕様により、2成分形の場合は、主剤と硬化剤を正確に計量し、均一になるまで混練りする。
- (5) ひび割れ部に沿って仮止めシール材をパテへら等で幅 30mm、厚さ 2mm 程度にシールする。なお、裏面に注入材料が漏れるおそれのある場合は、裏面に仮止めシールを行うか又は裏面より流出しない粘度の注入材を使用する。
- (6) エポキシ樹脂の注入量は
- (7) エポキシ樹脂注入材料は
なるまで混練りする。
- (8) 混練りしたエポキシ樹脂
0.4N/mm² 以下として注
- (9) 注入時は、台座やシール
状態を確認して、足りない
まま硬化養生をする。
- (10) エポキシ樹脂注入材の
去し、清掃を行う。



主剤と硬化剤を正確に計量し、均一に
ム、バネ、空気圧等により、注入圧を
クし、注入器具内のエポキシ樹脂の減量
、注入完了後は、注入器具を取り付けた
シール材及び注入器具を適切な方法で撤



c . 使用材料

仮止めシール材	
エポキシ注入材	

<https://www.sekouya.com>

4) 塗膜剥離箇所段差修正

吹き付けタイル、リシン面に適用する。

a. 施工方法

- ・ 高圧洗浄機で除去・ケレンを行った後、付着力が低いと判断した残存旧塗膜、または塗膜下地はディスクザンダー、ケレン棒及び皮スキ等を用いて、活膜部分まで入念に撤去する。
- ・ ワイヤブラシ及びダスター等を用いて、剥離箇所の清掃を行う。
- ・ 金コテ等を用いて、NS カチオン接着剤を剥離部位に塗布する。
- ・ 仕上げ面は既存塗膜よりも劣化を防止し、段差を平滑とする。
- ・ 旧塗膜に出来る限り近い、

b. 使用材料

	↑
	↓

↑

5) アンカーピンニング部分エポキシ樹脂

a. 施工方法

(1) 補修範囲の確認

- ・ テストマンマー等で、補修範囲を調べてマーキングする。
- ・ 一般部：9本/m²
- ・ 指定部（見上げ面）：16本/m²
- ・ 狭幅部（200以下）：@

(2) 穿孔

- ・ 規定のドリルビット（アンカーピン）を用いて、コンクリート用振動ドリルにてピンの長さより5mm程度深く穿孔し、アンカーピンを垂直に打ち込んで直角となるようにする。
- ・ 孔あけはコンクリートに

(3) 清掃

- ・ 孔内にゴムスポイト、エアブロヤ等を用いて、孔内を吹き込み、切粉等を除去する。

(4) エポキシ樹脂注入

- ・ グリスポンプ（手動式注入器）にて、注入口より徐々に充填する。
- ・ 充填量：25（約30g）/1カ所

(5) ピンの挿入

- ・ 挿入に先立ち、ステンレスピンのネジ切り部分にエポキシ樹脂を塗布してから、気泡の巻込みに注意して挿入する。

(6) 仕上げ

- ・ 注入口を目立たぬ色のパテ状エポキシ樹脂等で仕上げる。

(7) 養生 (夏期 : 15 時間、冬期 : 24 時間)

- ・エポキシ樹脂注入後、衝撃を与えないようにし、養生する。

(8) 清掃

- ・注入部以外に付着した汚れを除去し、清掃する。

b . 使用材料

アンカーピン	
エポキシ樹脂	

6) 注入口付アンカーピンニング法

a . 施工方法

(1) 補修範囲の確認

- ・テストマンマー等で、補修範囲を調べてマーキングする。
- ・一般部 : 9 本 / m²
- ・指定部 (見上げ面) : 16 本 / m²
- ・狭幅部 (200 以下) : @

(2) 穿孔

- ・規定のドリルビット (アンカーピン用) を用いて、コンクリート用振動ドリルにてピンの長さより 5mm 程度深く穿孔する。

(3) 清掃

- ・孔内にゴムスポイト、エアブロー等を用いて、孔内を吹き込み、切粉等を除去する。

(4) ピンの挿入

- ・アンカーピンを孔に挿入し、ハンマーで表面と平滑になるまで打ち込み、専用の打ち込み棒にて先端の開脚部を拡張し固定する。

(5) エポキシ樹脂注入

- ・グリスポンプ (手動式注入器) に専用ノズルを装着して、注入口より徐々に充填する。
- ・充填量 : 25cc (約 30g) / 1 カ所

(6) 仕上げ



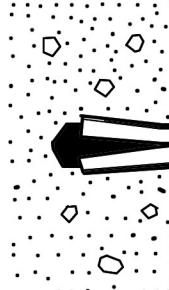
・注入口を目立たぬ色のパテ状エポキシ樹脂等で仕上げる。

(7) 養生 (夏期：15 時間、冬期：24 時間)

・エポキシ樹脂注入後、衝撃を与えないようにし、養生する。

(8) 清掃

・注入部以外に付着した汚れを除去し、清掃する。



エポキシ樹脂
カーピン

パテ状エポキシ樹脂

b. 使用材料


アンカーピン
エポキシ樹脂

7) シーリング打ち替え工事


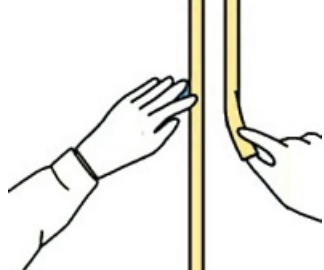
a. 施工フロー

<p>既存シーリングの撤去 ・電動工具カッター等により、</p>	<p>撤去する。</p>	
<p>目地の状態の確認 ・所定の目地形状・寸法で段差 ・被着面は十分養生期間がとら 亀裂) 部分がないことを確認 ・被着面は十分乾燥させる。</p>	<p>カ、欠け、</p>	
<p>目地の清掃 ・サビ、油分、ほこり、モルタルくず、塗料など接着を阻害する ものを取り除く。 ・ウエスでから拭きした後、メチルシクロヘキサンなどの溶剤で 清掃する。</p>		

<https://www.sekouya.com>

<p>バックアップ材の装てん</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 下記のバックアップ材の表より、適切なバックアップ材を選定して使用する。 ・ バックアップ材を装てんする場合、所定の位置にねじれ、段差、継ぎ目、傷などがないように注意する。 			
<p>目マスクングテープはり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ マスクングテープは、その粘を使用する。 ・ 貼り付けは被着面に食い込ま注意して行う。 	<p>ないもの 線に沿って</p>		
<p>プライマーの塗布</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 適合プライマーの品名を確認 ・ 塗りむら、塗り残しが無いよ ・ 吸い込みの多い場合は2度塗 ・ プライマーの乾燥後は所定時 		<p>る。 行う。 施工する。</p>	
<p>シーリング材の練混ぜ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 混合は、シーリング材専用混 ・ 基剤・硬化剤・カラーマスタ 10分以上混合する。 ・ 混合容器の壁、底部および攪 やすいので、かき落とし後再度 	<p>になるまで 合になり</p>		
<p>シーリング材の充てん</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 混合したシーリング材は、可 よって目地へ充てんする。 ・ 目地底にコーキングガン 充てんする。 	<p>ガンに と十分に</p>		

<https://www.sekouya.com>

<p>ヘラ仕上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シーリング材充てん後はすみやかにヘラ仕上げを行う。 ・目地幅にあったヘラで、押さえを十分に行い平滑に仕上げる。 ・ヘラ押さえが不十分であると、硬化後にクレーター等が発生する場合がありますので注意する。 		
<p>マスキングテープの除去</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヘラ仕上げが終わったらすみ除去する。 	<p>ブを</p>	
<p>目地回り清掃</p>		
<p>シーリング材の養生</p>		
<p>自主検査</p>		

https://www.sekouya.com

b . バックアップ材およびボン
 シーリング材が目地の動き
 充てん深さ調整のためにバ
 レーカー（接着防止テープ）

に 2 面接着とし、またシーリング材の
 。なお、目地が浅い場合には、ボンドブ
 シーリング材を 2 面接着とする。

c . バックアップ材・ボンドブ

(1) バックアップ材

使用箇所	形状・材質	材の形状	備考
PCa 板、または目地底のない場合	丸型ポリエチレン発泡体	3	装てん直後にシーリング材を充てんするとふくれることがあるので注意する。
金属目地、または目地底のある場合	角型ポリエチレン発泡体	幅より mm いもの 幅 × 1.1 ~	
ガラスまわり	クロロプレンゴム EPT ゴム ポリエチレン独立気泡発泡体	目地幅 × 1.1 ~ 1.2	シーリング材に変色などの悪影響を及ぼさないもの。

(2) ボンドブレーカー

使用箇所	シーリング材	材 質	形 状
目地が 浅い場合	シリコン系 変成シリコン系 ポリイソブチレン系	ポリエチレンテープ ポリエチレン被覆テープ	目地幅より小さい もの
	ポリサルファイド ポリウレタン系 アクリルウレタン	被覆テープ ンテープ ン被覆テープ	

<https://www.sekouya.com>